

1 日 時 令和 6 年 8 月 8 日 木曜日
開会 9 時 00 分 閉会 11 時 00 分

2 場 所 京都市総合教育センター 第 1 研修室

3 出席者 教 育 長 稲田 新吾
委 員 笹岡 隆甫
委 員 野口 範子
委 員 松山 大耕

4 欠席者 委 員 石井 英真
委 員 濱崎 加奈子

5 傍聴者 21 名

6 議事の概要

(1) 開会

9 時 00 分、教育長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第 1514 回京都市教育委員会会議の会議録について、全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案 1 件

イ 議決事項

議第 1 1 号 令和 7 年度から令和 10 年度まで京都市立中学校及び義務教育学校(後期課程)において使用する教科書の採択について

本日は、議第 11 号「令和 7 年度から令和 10 年度まで京都市立中学校及び義務教育学校(後期課程)において使用する教科書の採択について、お諮り申し上げます。

まず、本日の資料について御説明申し上げます。資料は、教科書採択についての議案のほか、議案説明資料と別紙 1～3 並びに資料 1～3 である。併せて、各教科書の見本本についても机上に設置している。適宜御確認いただくようお願い申し上げます。

本日の説明は、主に議案説明資料と別紙 1 の「各教科書の主な特徴等について」に基づいて行う。それでは、議案の説明に先立ち、まず、教科書採択事務の経過について御説明申し上げます。

議案説明資料の 1 ページを御覧いただきたい。

はじめに、「1教科書採択の主な経過」についてである。学校現場の教員及び各教科の指導主事、保護者代表、学識経験者の計110名からなる「京都市中学校教科書選定委員会」を5月20日に開催し、教育長から教科書の選定についての諮問を行った。この諮問を受け、教科書選定委員会では、全体会を3回実施した。

5月20日の第1回選定委員会では、5月16日の教育委員会で議決された「教科書採択に関わる基本方針」及び「選定の観点」を確認するとともに、各教科書の点検やスケジュール確認などを行った。次に、6月27日の第2回選定委員会では、教科ごとの調査研究部会から調査の進捗状況の報告と質疑が行われたほか、7月22日の第3回選定委員会では答申内容の大枠が決定され、7月26日に教育長に答申を提出いただいた。本配布している資料1はその答申の写しである。

この間、選定委員会においては、学識経験者や保護者代表の委員の皆様から、多岐にわたって様々な御意見を頂戴した。また、全体会以外にも、諮問から答申までの約2か月の間に、各教科の調査研究部会が延べ110回以上開催され、熱心な審議が行われた。

併せて、教育委員会においても、この間、選定委員会の経過や協議内容、調査研究の状況、教科書の特徴等について適宜報告し、協議いただくとともに、8月1日には答申内容を御説明したところである。以上が、教科書採択の主な経過である。

続いて、教科書採択に係る議案について御説明申し上げる。「01_議案」のファイルを開いていただき、2ページ目の別紙を御覧いただきたい。採択案は一覧のとおりである。また、議案説明資料別紙1の「各教科書の主な特徴等について」を紙でも配布している。併せて御覧いただきたい。

それでは、各教科の選定理由について各教科指導主事から御説明申し上げます。なお、概ね3～4教科ごとに区切りながら御質問等を賜りたい。よろしくお願い申し上げます。

はじめに、国語科から数学科まで御説明申し上げます。

(教科ごとに指導主事から説明)

はじめに、国語科である。4社について概要を御説明申し上げます。別紙1の2ページを御覧いただきたい。

まず、東京書籍である。巻頭には、これから1年間で習得を目指す学習事項が掲載されており、生徒が新たな言葉の力を身に付けようとする動機付けとなっているとともに、「学びを支える言葉の力」では、複数の単元で身に付けた力を活用できる言語活動が提案されるなど、学習や対話の基本を活動しながら身に付けられるよう工夫されている。また、各単元末の「てびき」では、学習目標・学習過程・振り返り活動が設定されており、特に、振り返る活動では、学んだことを自分の言葉でまとめ、各単元の目標や「言葉の力」を意識しながら振り返ることができる内容になっているなど、よく工夫されている。

次に、三省堂である。単元末に設定されている「学びの道しるべ」には、「学びを振り返る」として、生徒が学んだことを自分の言葉でまとめる手がかりとなるキーワードが示されているが、どの単元においても「学んだことを自分の言葉でまとめよう。」と記載されており、生徒が自身の学びや気づきを言語化する手立てとしてはやや弱いと見受けられる。

また、巻末の「社会に生かす」では、辞典の活用や手紙等の書き方について例が示されているが、各学年とも同じ内容となっており、生徒が国語科で培った言語能力を社会

生活で生かせるよう促す工夫が弱いと見受けられる。

次に、教育出版である。各単元で、学習のポイント、思考に関わる用語や表現等が取り上げられており、生徒が学習内容を把握しやすくなっているとともに、各領域で系統立てて学習できるよう単元の配置にも配慮されている。

各単元の前にある「学びナビ」では、目標が示され、単元末に設定されている「みちしるべ」では、学習内容とその単元で行う言語活動や振り返り活動が示されているが、振り返り活動については、学習目標が達成できたかどうかをチェックボックスにチェックする形のため、生徒が自分の言葉でまとめる手立てとしてはやや弱いと見受けられる。

最後に、光村図書出版である。各領域の力を融合させる「生かす」や、各単元での学びを有機的に関連させて活用する「学びのカギ」が設定されており、各領域の一体的な学びが深められるよう工夫されている。また、身に付けた語彙を広げ、生活の場面で活用する課題が設定される「言の葉ポケット」や、既習の技能の活用を通して単元の学習を始める「やってみよう」など、生徒が自発的に学ぶための手立てがよく工夫されている。

さらに、「振り返る」では、どの資質・能力に対する振り返りなのかが明確であり、加えて主体的に学習に取り組む態度の振り返りでは、自らの学びの調整を図るヒントとなる言葉が掲載されているとともに、学んだことを自分の言葉でまとめるため、単元ごとに自己変容を意識できるような課題や問いが設定されており、優れている。

以上を総合的に勘案した結果、「光村図書出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えられる。

次に国語科・書写である。4社について概要を御説明申し上げます。別紙1の3ページを御覧いただきたい。

まず、東京書籍である。「生活に広げよう」として、学んだ内容を他の文字にどのような生かせばよいかを考えて書く活動が取り入れられているとともに、各単元の「振り返ろう」では、分かったことや考えたことを話し合ったり、自分が書いた字を説明したりする学習活動が用意されているなど、知識及び技能の定着に留まらず、生徒が効果的・効率的に思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう、よく工夫されている。

次に、三省堂である。各単元の「書き方を学ぼう」で、その学習で生徒が着目すべき書き方のポイントや内容が、ひと目で分かるよう構成が工夫されており、「書いて身に付けよう」で学習したことを主体的に活用する力を付けられるよう工夫されている。また、話し合いの課題が学年末に設定されており、どのようなことについて考え、話し合うのかが具体的に示されるなど、対話的な学びに取り組みやすいよう工夫されている。

次に、教育出版である。1、2年生では、筆使いや書き方等の学習で気付いたことを記入する欄が設けられているとともに、3年生の終わりには、自分で課題を選択する単元が設定されるなど、目的意識や相手意識をもって思考・表現することが促されているなど工夫されている。

最後に、光村図書出版である。各単元が「考えよう」「確かめよう」「生かそう」というひと目でわかる構成で統一されている。特に、「考えよう」では、話し合い活動等が提案されるなど、知識及び技能の定着はもとより、文字の原理原則について考えたり、表現したりする活動や振り返り活動を通して、生徒が段階的に思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫されており、優れている。

以上を総合的に勘案した結果、「光村図書出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最

も即した教科書であると考え。

国語科については以上である。

社会科・地理的分野である。4社について概要を御説明申し上げる。別紙1の4ページを御覧いただきたい。

まず、東京書籍である。各単元の導入で単元全体を貫く問いが設定され、毎時間の学習課題を積み重ね、習得した知識及び技能を基に章末の活動で解決を図るという、課題解決的な学習の流れが分かりやすく構造化されており、優れている。また、教科書全体を通して「環境・エネルギー」や「人権・平和」などのテーマが取り上げられ、SDGsと結び付けて世界や日本の現代社会に見られる諸課題の解決を目指して、生徒が持続可能な社会に向けて考察し、社会参画の意識を高められるような工夫も見られる。

次に、教育出版である。写真等から各地域の文化の特色に気付かせる工夫や、多文化共生社会に注目した特設ページを設けて、生徒が異なる多様な文化を理解し尊重しようとする態度を身に付けることができるようにする工夫が見られる。また、学習課題やコラムに関連付けられた資料において、被災地でのボランティア活動の姿を取り上げるなど、人権に関わる視点に関連する写真を積極的に取り上げる等、人権意識を育む構成が優れている。

次に、帝国書院である。毎時間の学習や章末の活動で、学習内容を整理し、話し合いを通して自分の考えを深めていく活動が段階的に示され、習得した知識及び技能を活用して思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫されていることに加え、対話場面や言語活動を意識した学習課題が充実している点が優れている。さらに、巻頭ページで地理的な見方・考え方を5つの視点で解説しているほか、節末には、節の問いに対して評価の三観点と関連付けながら振り返る活動を設定し、生徒が自身の学習状況を把握できるよう工夫されている。

最後に、日本文教出版である。各ページに学習を進める際の「見方・考え方」を示す工夫が見られ、生徒が学習課題を通じて、知識だけではなく、地理的な見方・考え方を習得できるように構成されている点が優れている。また、適宜設定されているコラムや特設ページなどで、世界や日本における自然・世界遺産や文化財等の伝統と文化を守り、未来に継承していく人々の営みについて深く考える題材が取り上げられており、生徒が異なる多様な文化を理解し尊重しようとする態度を身に付けることができるよう工夫されている。

以上を総合的に勘案した結果、「帝国書院」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考え。

次に社会科・歴史的分野である。9社について概要を御説明申し上げる。別紙1の5ページを御覧いただきたい。

まず、東京書籍である。学習課題が、章、節、毎時間という3段階で構造化されて示されるとともに、それぞれの問いに対応したまとめや振り返り活動が具体的に設定され、生徒が学習内容を習得できるような工夫が見られる。また、課題解決的な学習の具体的な進め方に加え、ポスターセッション、歴史新聞、レポート、イラストマップ、プレゼンテーション等、生徒がまとめを行い、表現する際の多彩な方法が紹介されるなどよく工夫されている。

次に、教育出版である。学習課題を、章の問い、節の問い、毎時間の学習課題の3段階で構造化するとともに、毎時間の学習課題に応じた振り返りの視点を示しており、

生徒が学習内容を習得できるようよく工夫されている。各章末には、年表形式の構造図で時代の流れを大きく捉え直す活動やその時代の特色を歴史新聞、関係図等で整理してまとめる活動が設定されているなど、生徒が歴史の大きな流れを大観し、各時代の特色を捉えるための多様な活動が設定されている。

次に、帝国書院である。「アクティブ歴史」のコーナーにおいて、論争的な課題が用意され、論点の整理や議論する活動を通して、生徒が様々な立場を踏まえて自分の考えを深めていく活動が設定されるなど、多面的・多角的に考察する力を身に付けられるようよく工夫されている。また、各時代の様子を描いたイラスト「タイムトラベル」を活用して、前の時代との比較や学習した時代の特色を捉え直す活動などにより、生徒が歴史の流れを大観し、各時代の特色を捉えやすくなっており優れている。

次に、山川出版である。毎時間の学習課題は発問形式で示されているが、単元や節のまとめりとしての学習課題は設定されておらず、生徒の学習内容の習得に向けた手立てとしてやや弱い。章の始めに、その時代の日本の年表に加え、世界の年表や世界の様子が世界地図とイラストで示されているなど、関連資料や古代から近代の世界の歴史に関する記述が充実しており、生徒が我が国の歴史と世界の歴史との関連を深く学ぶための工夫に優れている。

次に、日本文教出版である。各編の導入や毎時間の学習で、考察の視点を具体的に示したうえで、説明する活動や、学習課題を深める問いが設定されているほか、章末の活動では、考察の視点や手順を3つのステップで示し、学習に繰り返し取り組む中で、生徒が考察する力や説明する力が身に付けられるようよく工夫されている。また、コラム「近代の女性」では、古代から現代までの女性の地位向上の流れが分かりやすく紹介されるなど、生徒が人権尊重の意識を高められる工夫が見られる。

次に、自由社である。章や節をまとめりとした学習課題が見られないことや、まとめや振り返りとして示されている活動が毎時間の学習課題に対応していない面も見られ、生徒が学習内容を習得するための手立てとして弱い。また、歴史的な事象を深く知るためのコラムが豊富に掲載され、生徒の探究意欲を高める工夫が見られるものの、章末の活動では、キャラクターを通じて、生徒に気付かせたい視点等を必要以上に例示していることなど、全体を通して、対話的な学びを引き出す課題設定や工夫の面ではやや課題が見られる。

次に、育鵬社である。「歴史ビュー」や「歴史ズームイン」では、多角的な視点で時代を捉えるためのコーナーやコラムが用意されるなど、生徒が歴史学習に必要な技能を身に付けられるよう工夫されている。また、毎時間の学習や章末の「学習のまとめ」で、学習内容を説明する活動が数多く設定されるとともに、終章「日本の歴史を大観する」の課題を通じて、生徒が自ら選択した歴史的な事象から、考察する力や説明する力が身に付けられるよう工夫されている。

次に、学び舎である。毎時間のまとめ活動設定がないことに加え、各部の「学習のまとめ」では、時代の特色や転換期を捉えて、自分でまとめる活動が設けられているものの、各部冒頭に示される学習課題とのつながりが明確でないため、生徒が課題を追究し解決する学習を進めるための手立てとなり得ていない。また、学習の問いや章のまとめの課題で、個別に学習を進めたり、協働的に学ぶ場面は設定されているが、学習状況を振り返る場面の設定が少なく、個別最適な学びと協働的な学びを展開するための工夫としては弱い。

最後に、令和書籍である。「課題」と「考えよう」の2段階の問いによる学習活動は、具体的に言語活動を行う学習に繋げるようには示されておらず、生徒が主体的に対話を行い、学びを深めるための手立てとしてはやや弱い。また、毎時間のまとめとして提示される「考えよう」が、学習課題として提示される「課題」の内容と対応していないことや、章末の「学習のまとめ」が章で学習した内容の一部を切り取って、まとめ、振り返る活動として提示されていることから、生徒が見通しをもって課題を追究したり、解決したりする学習にはつながりにくく、手立てとしては弱い。

以上を総合的に勘案した結果、「帝国書院」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えられる。

次に社会科・公民的分野である。6社について概要を御説明申し上げる。別紙1の7ページを御覧いただきたい。

まず、東京書籍である。全ての単元の「導入の活動」で「探究のステップ」と「探究課題」を示し、生徒が課題解決的な学習を進められるような工夫が見られる。また、単元、節、毎時間という3段階で問いが示されたうえで、それらの問いに対応した振り返り活動が系統的に設定され、特に章末の活動では思考ツールの活用を含めて課題に取り組むことで章の「探究課題」に対して自らの考えが構築されるよう構成されている点が優れている。

次に、教育出版である。学習課題が、章のテーマとしての問い、節ごとの問い、毎時間の学習課題の3段階で示され、それに対応したまとめや振り返り活動が設定されているなど、生徒が学習内容を習得できるよう工夫されている。また、地域の教訓や日本の美德など過去から受け継がれてきたものを未来の世代へと受け継いでいく意味について考える場面が設定され、生徒が我が国と郷土を愛し、伝統と文化を尊重するとともに、他国の多様な文化や価値観を互いに尊重する態度を身に付けることができるよう工夫されており、優れている。

次に、帝国書院である。各単元のまとめで他者の意見をもとに自分の考えを深めながら課題を解決する活動が設定され、単元を通して考察・構想する学習活動が充実している点が優れている。また、特設ページで社会が直面する課題が取り上げられている他、各所にSDGsとの関連を示すマークが付されるなど、生徒が持続可能な社会の形成に参画する態度を身に付けられる工夫が見られる。

次に、日本文教出版である。単元の冒頭でイラストをもとに身近なできごとを取り上げて、単元の学習内容を見通す場面が設定されており、生徒の学習の動機に繋がる手立ての工夫が見られる。また、毎時間の学習で学習課題に応じた「見方・考え方」を、着目する視点として具体的に示すなど、生徒が学習の見通しをもちながら課題追究を行いやすい点や、特設ページや章末の「まとめと振り返り」などで、見方・考え方を働かせる問いが設定されている点が優れている。

次に、自由社である。全体を通して、図表をはじめとする関連資料の掲載が少なく、情報収集・分析、資料を読み取る力などを身に付けるための工夫やコーナーなどもほぼ設定されていないなど、生徒が公民の学習に必要なとされる技能を身に付けるための学習の手立てが弱い。また、各単元の学習課題は、本文の記述をもとに、これまでの歴史的な背景から日本の現状を知ること重点が置かれ、多様な視点をもとに、生徒自らが現代社会の特色を捉え、解決すべき課題を把握し、その解決に向けて考察、構想する場面の設定が少ない。

最後に、育鵬社である。学習課題が、章の問い、節ごとの課題、毎時間の課題の3段階で構成され、毎時間の課題に対応した「確認」「探究」に取り組むことで、生徒が学習内容を習得できるよう工夫されている。また、「文化と宗教の多様性」を題材に世界遺産や世界の主な宗教の分布図等が示されたり、「国旗・国歌」の題材で、日本の歴史や伝統・文化を意識することについても取り上げられるなど、生徒が我が国と郷土を愛し、他国の多様な文化や価値観を互いに尊重する態度や、「SDGs」の理念に基づき、国際社会が目指す姿を実現するため、日本が果たすべき役割を考え、社会参画への意識を身に付けることができるようよく工夫されている。

以上を総合的に勘案した結果、「日本文教出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考ええる。

次に社会科・地図である。2社について概要を御説明申し上げる。別紙1の9ページを御覧いただきたい。

まず、東京書籍である。地形と水系から地域の歴史と地理の関わりを読み解く地図により歴史的分野との関連が図られ、人口・貧困問題や紛争・難民問題などの現代的な諸課題を取り上げることにより公民的分野との関連が図られるといった工夫が見られる。また、問いの質の違いをイラストキャラクターを用いて分かりやすく示して、生徒が地理情報を深く読み取る技能を身に付けられるよう工夫されている点が優れている。

最後に、帝国書院である。緯度や経度といった条件を読み取って位置を確認するような課題や、統計と関連付けて地図を活用して地域を調べることにつながる課題が設けられ、基礎的な技能を幅広く身に付けるための工夫が見られる。また、鳥観図が多数掲載され、イラストを交えて分かりやすく表現されていることで必要な情報が読み取りやすい点や、主な資料図の縮尺を統一することで、資料図同士の比較が行いやすく、地域の特色やその考察が見出しやすい点、さらに、地形の特色が読み取りやすいように立体的に視認できるような配色となっている点などが優れている。

以上を総合的に勘案した結果、「帝国書院」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考ええる。

社会科については、以上である。

続いて、数学科についてである。7社について概要を御説明申し上げる。別紙1の10ページを御覧いただきたい。

まず、東京書籍である。各学年巻頭には、問題解決の進め方を意識した学びを進めるための視点が示されており、また、多くの章に設定されている「深い学び」のページでは、それらの視点を活用して主体的に学ぶことができるよう工夫されている。さらに、問題解決の手段を生徒同士が話し合う中で考えていく「話し合ってみよう」が設けられているなど、対話的に学習が進められるよう工夫されていたり、随所で数学と社会のつながりが紹介され、日常生活とのつながりを示すことで、生徒が探究意欲を高められるよう工夫されている。また、データの活用等に関する領域においては、日常生活に関連した学習活動が設定されており、生徒がデータを活用し、複数の資料を比較しながら論理的・統計的に解決方法を考えることができるとともに、データに基づいた問題解決の過程を掲載するなど、他の事象にも活用しやすい優れた工夫がされている。

大日本図書である。各章の導入ページでは、主体的な問題発見の活動から始まり、見いだした問題を対話的な活動を通して解決していく流れにするなど、生徒が主体的・対話的に学習を進められるよう工夫されているほか、随所に学習内容に関連した読み物を

設け、数学の歴史や生活との関わりを紹介することで、生徒の探究意欲を高められるよう工夫されている。さらに、随所にある「学びにプラス」や巻末の「もっと数学の世界へ」では、学習内容を活用して取り組む問題が設定されており、生徒が発展的な学習に取り組むことができる点で、優れている。

一方、章末問題がコンパクトにまとまっている分、生徒にとって問題ごとの難易度が確認しにくく、他社と比較して量的に十分でない点が見られた。

学校図書である。各章の導入では、話し合いで生まれた疑問から目標を立てる形で例題が設定されていたり、巻末の「さらなる数学へ」では、キャラクターの会話の中で協働的に解決していく方法が示されていたりするなど、生徒が数学的な見方・考え方を働かせて主体的・対話的に学ぶことができるよう優れた工夫がされている。

また、データの活用等に関する領域においては、問題発見から解決に至るサイクルと共にデータの分析方法を学ぶ構成とされていたり、キャラクターの対話で批判的に考察する場面を繰り返し設けることで、資料を比較しながら考え、適切な判断を行うことができるよう工夫されている。

教育出版である。各章始めの「Let's try」では、キャラクターの対話などを通して、生徒が主体的に学習に取り組める問題が提示されていたり、随所に掲載された「学びのプロセス」のページで、話し合い活動も交えた問題発見・解決の過程が掲載されていたりするなど、生徒が主体的・対話的に学習を進められるよう工夫されている。また、学習内容の区切りに設けられている「数学の広場」において、日常生活に関連した問題を掲載するなど、生徒が探究意欲を高められる工夫がされている。

さらに、章の始めにこれから学ぶ学習内容に関連する既習の知識及び技能の振り返り問題や、章の終わりに学習内容を活用して考える課題が設定されていたり、巻末に既習内容を次の学年の学習に活用できるよう項目ごとにまとめた「学びのマップ」が用意されていたりすることで、生徒が既習内容を段階的に確認・活用しやすいよう優れた工夫がされている。

新興出版社啓林館である。数学的な見方・考え方を活用することの重要性を巻頭で示すとともに、興味・関心をもって主体的・対話的に学習を進めることができるよう、各章や節の導入課題では、身近な事象について話し合い、考える活動を採り入れるなど、対話的な学びを重視した事項がバランスよく配置されており、生徒が深く探究できるよう優れた工夫がされている。また、全ての単元に日常の事象などに関連させながら学んだことを活用する節が設定され、課題解決の次にはさらに「深める例」を示すなど、探究意欲を高められるよう工夫されており優れている。

さらに、データの活用等に関する領域においては、導入部分で問題発見から解決までのデータ分析の基本的な考え方を学習した後で、学習内容を活用し、複数の資料を比較しながら考えたりする問題に取り組んでいける構成とすることで、生徒が論理的に問題解決を進め、学びを深めていくことができ、優れている。

数研出版である。各章の初めにある「学習の前に」において、その章に関連する既習項目を復習できる場面を設定することにより、生徒が習得した知識及び技能を振り返り、それを活用する方向性に気付きやすいよう工夫されているほか、データの活用を学習する章においては、節を通して題材を1つに絞るとともに、様々な表やグラフを用いて、それらのデータを比較しながら論理的に解決方法を検討する構成となっており、工夫されている。

一方、多くの問題について、キャラクターの会話文で根拠や過程の説明を進め過ぎてしまう展開となっており、生徒が主体的に数学的な表現を用いて学習活動を進める手立てとしては十分でない面が見られる。

最後に、日本文教出版である。巻頭で、学習の流れのイメージや話し合うときのポイント、学習を深めるポイントが分かりやすい表現で示されたり、随所にそれらのポイントをマークで付した問題が設定されている。特に「学び合おう」の節では、キャラクターによる会話の中で協働的に問題を解決していく方法を示したり、巻末に掲載された「対話シート」を活用することにより、主体的・対話的な学びを進めやすいよう工夫されており、優れている。

一方、章の中で日常生活や社会の事象を題材とする場面には「身近なことがら」のマークを付し、日常生活の事象を数学的に考える活動が用意されているが、全ての章に設定されているわけではなく、生徒が様々な領域で数学と社会との関わりを意識するための工夫が十分でない点が見られる。

以上を総合的に勘案した結果、「新興出版社啓林館」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えている。

一度、こちらで区切らせていただく。御質問等があれば、よろしく願い申し上げます。後ほどまとめて御質問いただいても差し支えない。

(委員からの主な意見)

【稲田教育長】 7月26日の答申を受けての、採択にかかる選定理由の御説明であった。これまで勉強会も4回実施してきており、様々な御意見をいただいたが、改めて確認の意味でも、何か御質問等あるか。

【松山委員】 歴史であれば、地域性によって採択する教科書が異なるであろうことは見当がつくところだが、数学については、あまり地域性や歴史は関係ないかと思う。他の自治体の採択状況がどうなっているのか、把握しているか。今後また情報をいただきたい。

【事務局】 以前は、出版社ごとのシェア率が発表されていたこともあると聞くが、現在はそういった資料は公開されていないようだ。

【稲田教育長】 京都府内の市町村の採択状況も分からないものか。

【事務局】 各自治体のHPから情報収集することとなるが、京都府内の状況であれば京都府がまとめているものがある。今後、可能な範囲で調査してまいります。

【野口委員】 よく精査していただき感謝申し上げます。社会科について、歴史は実際に経験することができないものであり、地理についても必ずしも行くことができないものである。優れた教科書で子どもたちが学ぶことによって、知識や技能を取得するだけでなく、想像力を働かせることが大切だと改めて感じた。

【事務局】 想像力については、子どもたちが、社会の事象をいかにイメージでき、身近に感じられるかという視点で教科書の中のイラストなどに工夫が見られるか等、調査研究を重ねた。

(引き続き、教科ごとに指導主事から説明)

続いて、「理科」から「保健体育科」まで御説明申し上げます。

理科についてである。5社について概要を御説明申し上げる。別紙1の12ページを御覧いただきたい。

最初に、東京書籍である。既習事項が単元冒頭や各節に掲載されており、学習のつながりを意識して進めることができるとともに、「ここがポイント」の欄に、公式や重要事項が取り上げられていることで、生徒が学習を進める中で確認しやすい工夫がされている。また、各節では関連する活用課題が提示されているのに加え、単元末の「活用問題」では、問題発見・解決的な課題が用意されており、習得した知識及び技能を活用しながら自らの考えを説明できるよう工夫されている。

さらに、日常生活や実社会と理科のつながりを意識したコラムが多数掲載されていたり、巻頭の「科学の本だな」で関連書籍が紹介されていたりするなど、生徒の興味を引き、科学の面白さを感じることができるよう工夫されているとともに、「学びを生活や社会に広げよう」では、興味・関心だけでなく深い学びにつながる問いが設定されており、優れている。

大日本図書である。章ごとに確認問題が設定され、各単元末には「まとめ」として、学習した内容をキーワードから振り返ることができる構成となっており、「単元末問題」、「読解力問題」を掲載し、生徒が段階的に基礎的・基本的な知識及び技能を習得できるよう工夫されている。

また、巻頭の「理科の学習の進め方」において、探究活動の流れが示され、各ページではそれぞれの学習課題が大きく示されていることで、課題を追究する学習の流れが分かりやすいよう工夫されている。さらに、随所に掲載されている「くらしの中の理科」等において、生徒が実社会と学習内容のつながりを意識できるような内容が掲載されており、理科への興味をもたせるだけでなく、その有用性に気付かせるよう工夫されている。

学校図書である。観察・実験等の後に適宜「探究を深める」が設けられ、学んだことを活用し、次の学習に生かす構成となっており工夫されている。また、巻末の「思考をさらに深める」では全国学力・学習状況調査や高校入試の問題を掲載し、知識及び技能の活用が図られている。一方、全体を通して指導者や生徒のイラストによる用語の説明や観察・実験結果の考え方が示されている説明の文章が長く明瞭でないため、分かりにくいところがある。

また、巻末に「補充資料」として、科学を学ぶ面白さやその有用性を意識できるような内容が掲載されているが、巻末にあるため、学習内容と関連付けにくく授業を展開しづらい面や、災害や減災に関するコラムなどの掲載や、博物館などの関連施設に関する紹介箇所が少ない面が見られる。

教育出版である。つまずきやすい箇所には例題が設けられていたり、随所に掲載されている「思い出そう」では、小学校での既習事項が写真や図を用いて具体的に示され、さらに文章の流れの中に掲載されており、学習の流れの中で基本事項の確認がしやすい優れた工夫がされている。また、随所に掲載されている「ハローサイエンス」では、身の回りの事象と理科の関連を紹介しており、理科への関心を高め、発展的な学習を促す話題が掲載されていることで、生徒が科学の面白さやその有用性に気付くことができるよう工夫されている。

一方、単元内に「活用しよう」が設定されているが、学習内容を説明するような内容も多く、習得した知識及び技能の活用が展開しづらい面が見られる。また、単元末に設

定された「活用問題」のうち、会話文の形式が用いられているものもあるが、学んだ内容の復習の要素が強く、活用を促す工夫としては弱いと考えられる。

新興出版社啓林館である。章の導入の「つながる学び」で既存の知識が写真や図と共に示されているとともに、「なるほど」のコーナーでは生徒がつまずきやすい箇所や可視化しにくい科学現象について、図等を使って丁寧に説明され、さらに、考え方が示されている「例題」を通して基礎・基本の確実な習得ができるよう優れた工夫がされている。また、単元内の随所に「Action活用してみよう」や「考えてみよう」が設定され、単元末にも「力だめし」として活用問題が多くの場合で用意されており、習得した知識及び技能の活用ができるようよく工夫されていることに加え、いずれも身近な内容に関する内容や会話文を用いている点が優れている。

実験と同じページ右下に「探究のふり返り」のコーナーを設けたり、巻末に探究の過程のチェックリストと、よくあるつまずきへのヒントを掲載したりするなど、探究の各段階を振り返ることができるよう優れた工夫がされている。

また、「部活ラボ」、「お料理ラボ」など、学習内容がどのように日常生活や実社会と結び付いていたり、活用できるのかが分かるようなコラムを多数掲載している点が優れている。

以上を総合的に勘案した結果、「新興出版社啓林館」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考ええる。

次に、音楽科である。まずは「一般分野」の2社について概要を御説明申し上げる。別紙1の14ページを御覧いただきたい。

教育出版である。巻頭で、領域・分野ごとに対応する教材を分類し、育成を目指す資質・能力の関係性を示すことで、見通しをもって生徒が学習を進められるようになっている。また、教材の始めには、歌詞の内容と関連する写真を使用しており、生徒が歌詞をイメージしやすく、豊かな知覚・感受につながるよう工夫されている。

さらに、表現領域と鑑賞領域を関連付けて学習できるように配列されているとともに、「日本の民謡」では、民謡の音階を用いて表現領域の創作学習ができるよう工夫されている。また、3年間を通して、様々な国の音楽文化のルーツを学習できるように配慮されている。

次に教育芸術社である。巻頭で、育成すべき資質・能力と、それに対応する学習内容や教材、音楽を形づくっている要素を明示するとともに、各教材でも「学習目標」「具体的な学習活動」「音楽を形づくっている要素」などを示し、生徒が身に付けることができる資質・能力が一目で分かるようになっており、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう、優れた工夫がされている。

また、知覚と感受との関わりについて考える場面が設けられ、それを「どのように表現したいか」という思いにつなげることで、表現の工夫を考えることができるよう配慮されており、優れている。さらに、我が国の伝統音楽、郷土の民謡や芸能について、表現領域と鑑賞領域の学習活動を関連付けた工夫がされているとともに、3年間で学習に取り組み、伝統音楽を受け継ぐことの大切さも理解できるよう工夫されており、優れている。

以上を総合的に勘案した結果、「教育芸術社」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考ええる。

続いて、「器楽分野」である。こちらも2社について概要を御説明申し上げる。別紙1

の15ページを御覧いただきたい。

教育出版である。目次で、楽器ごとに学習の流れが示されているとともに、各教材で、学習目標と活動のポイントが示され、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようになっている。また、楽器を演奏する上で重要な技能について、様々な角度からの写真を用いて詳細な箇所が解説するとともに、新たな音や奏法を使って演奏する課題を提案したり、難易度が高い曲も含めて楽しんで合奏できる多様な楽曲を取り上げ、生徒の探究意欲を高め、主体的・対話的に取り組めるよう工夫されている。

篠笛、箏、三味線などに関しては、様々な楽曲が使用され、生徒が親しみや実感をもって伝統音楽に接することができるよう配慮されているとともに、「さくらさくら」を共通教材として取り扱うことで、生徒がそれぞれの楽器の魅力を感じ、和楽器への関心を高められるように工夫されている。

次に教育芸術社である。巻頭で、育成すべき資質・能力とそれに対応する学習内容や教材、音楽を形づくっている要素を明示するとともに、器楽・創作に関わる1年間の学習を俯瞰できるようになっており、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。さらに、「音楽を形づくっている要素」を窓口に、演奏する際に思考・判断し表現するための学びの視点を示し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう優れた工夫がされている。

また、より美しい音色やハーモニーで演奏するための手がかりを記載したコーナーを設けることで、生徒の探究意欲を高める工夫が見られる。

箏の学習では、日本古来の縦書きの楽譜を掲載し、日本の伝統を感じさせるだけでなく、五線の楽譜に対する苦手意識がある生徒にとっても取り組みやすいようになっている。また、巻末では、和楽器を用いたポピュラー音楽や映画音楽などの楽譜が掲載されており、生徒が親しみをもって伝統音楽に接することができるよう優れた工夫がされている。

以上を総合的に勘案した結果、「教育芸術社」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考え。

音楽科については以上である。

続いて、美術科についてである。3社について概要を御説明申し上げる。別紙1の16ページを御覧いただきたい。

まず、開隆堂出版である。各題材名の横に育成すべき3つの資質・能力に応じた「学習の目標」が簡潔に明示されており、イラストの吹き出しに生徒が主体的に考えたり話し合ったりするポイントを示すことで、題材のねらいや身に付けるべき知識及び技能が分かりやすくなるように配慮されている。また、巻末の「学びの資料」では、構図の捉え方や量感の表現、色彩の基本、映像のメディアの活用方法など、表現のための技法理解や鑑賞材料などの基礎的な知識、様々な用具の基本的な使い方がまとめられており、生徒が学習した知識及び技能を必要に応じて参照し、振り返ることができるよう工夫されている。一方で、全題材において、表現活動と鑑賞活動について「鑑賞」「発想・構想」「知識・技能」など作品とともに発問が設けられており、生徒が考えて取り組めるよう構成されているが、表現と鑑賞が結び付くようなポイントの明示が不十分であり、生徒に表現と鑑賞を相互に意識させたり、関連させたりする手立てが弱いと考えた。

まず、光村図書出版である。各題材の最初には分かりやすく目標が示されており、1つの題材で「表現」「鑑賞」を一体的に関連付けて学ぶことができるよう工夫されている。

また、1～3年生の学習を支える資料が1つの別冊子にまとめられており、図版が大きく掲載され、丁寧で分かりやすい説明も記載されている。さらに、同じ題材でも異なる配色や材料、道具を使った表現を並べて配置することで違いが分かりやすいレイアウトになっている等、生徒が主体的に参照し、活用したりできるよう工夫されており、優れている。加えて、「表現」と「鑑賞」の相互関係が全題材で意識されており、生徒が各活動で学習内容を確認し、造形的な見方・考え方を働かせながら学習できるよう構成されており、また表現活動をするうえで、導入時に「鑑賞」活動を設け、吹き出しに視点のポイントを示すことで、主体的に学習を進められるよう工夫されており、優れている。

最後に、日本文教出版である。生徒にとって題材のねらいや身に付けるべき知識及び技能が分かりやすいよう、各題材の横には育成すべき3つの資質・能力に応じた「学びの目標」の簡潔な明示、「造形的な視点」ではその題材で考えたり話し合ったりするポイントが示されるなど工夫されている。また、巻末の「学びを支える資料」には、技法・色彩・鑑賞に分けて必要な解説がまとめられており、学習した知識及び技能を必要に応じて参照し、振り返ることができるよう工夫されている。加えて、各題材で作品鑑賞をする際に主発問となる「鑑賞の入り口」を設けることで、活動のねらいを理解し、生徒が自分なりの問いを生み出して、能動的・体験的に学習を深められ、また「表現」と「鑑賞」の相互を関連付けながら学習が進められるよう全題材に双方の「学びの目標」が設けられており、「造形的な視点」と併せて鑑賞することにより、生徒が鑑賞して気付いたことを活用し、見通しをもって表現及び鑑賞活動ができるよう工夫されている。

以上を総合的に勘案した結果、「光村図書出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えます。

続いて、保健体育科である。4社について概要を御説明申し上げます。別紙1の17ページを御覧いただきたい。

まず、東京書籍である。各単元冒頭で、学習課題や学習内容に関するキーワードが明示され、章末に解説が掲載されているとともに、各単元の構成を統一し、導入からまとめ・振り返り、発展的活動までの学習活動の流れが順序立てて示されており、生徒が自身で確認しながら、見通しをもって学習を進められるよう優れた工夫がされている。

また、各単元で、生徒が学習課題の合理的な解決に向けて自他の生活と関連付けて考えたりするなど、多面的・多角的に考察し、その結果を発表や話し合い活動を通して表現する発問が設定され、思考力、判断力、表現力等を身に付けることができるよう工夫されており、優れている。また、自然災害に関する単元では、地域と共に災害に備えることの重要性を学習できるよう工夫されており、優れている。

次に大日本図書である。各単元冒頭で「学習のねらい」が示されるとともに、「つかもう」「話し合ってみよう」「活用して深めよう」と学習の流れが明確になっているが、発問内容が生徒にとって具体的にイメージしづらく、興味を抱きにくい表現となっているところが見受けられる。健康や安全については、生徒が実生活の中で適切な意思決定や行動選択につなげられるよう、健康に関する自身の生活の課題を見つけて改善する方法を考える発問が用意され、具体的な回避の方法を自分で考えたり、話し合ったりする活動が設定されるなど、工夫されている。

次に大修館書店である。各単元末や章末において、学習内容を活用して実生活の課題を考える問題が用意されており、生徒が習得した知識及び技能を活用し、課題解決を図る活動の中で、思考力、判断力、表現力等を身に付けることができるよう工夫されてい

る。また、「章のまとめ」に「主体的に学習に取り組む態度」を設定し、学習内容の理解度などを自己評価する欄が設けられており、生徒が学んだことを振り返り、確認できるように配慮されている。また、交通事故、犯罪被害などの発生要因を具体的な写真やイラストなどを掲載しながら紹介するとともに、話し合い活動が設定されるなど、工夫されている。

最後に、Gakken である。各単元が「課題の発見」「課題の解決」「学びの活用」の流れで構成されており、保健体育科としての見方・考え方を提示し、生徒が段階的に学習を進められるよう工夫されており、優れている。また、随所に掲載されている「もっと広げる・深める」において、生徒がその単元や章の学習に関するより発展的な学習に取り組めるよう工夫されていることも特徴である。さらに、各単元で、実生活に即した事象について説明・表現したりするなど、言語活動を伴う学習活動を多く設定することや、学習の理解度などを自己評価する欄を設けるなど工夫されている。

以上を総合的に勘案した結果、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えます。

こちらで区切らせていただく。御質問等があれば、よろしくお願い申し上げます。

(委員からの主な意見)

【野口委員】 理科について、これまでの勉強会でも日常生活や社会生活に関連付いているかどうかが大変とお伝えしてきており、その点も踏まえて精査していただいたかと思う。また、数学で論理的思考を身に付け、理科において、それを実践するものと考えられるが、その点についてはどう評価しているか。

【事務局】 理科に関しては、探究の過程と日常生活との関連付けを重視しており、特に活用課題を重視し、調査研究を重ねてきた。取得した知識及び技能をどのように活用するか、知識が再構成されていくか、という視点において、活用課題が深いものになっていることや、どの場面で設定されているかということなどを選定の中で重視した。

【野口委員】 まずは、子どもたちが教科書を通して、理科を楽しんでいると思ってもらえることが大事だと思っている。今後もぜひそのような視点から授業実践をお願いしたい。

(引き続き、教科ごとに指導主事から説明)

最後に、技術・家庭科、外国語科、特別の教科 道徳を御説明申し上げます。

続いて、技術家庭科 技術分野である。別紙1の18ページを御覧いただきたい。

まず、東京書籍である。各編において、問題解決の5つのプロセスで統一的に構成し、問題解決例をプロセスに応じて示すことで、生徒自らが課題解決への見通しをもって、問題解決的な学習に取り組めるようになっており、優れている。また、巻頭で、技術の最適化の概念や実際の製品に活用されている事例を紹介するとともに、各編の導入で、その編の学習内容に関連した技術の見方・考え方を提示し、技術の最適化について考えさせる構成となっており、優れている。さらに、「プログラミング手帳」により、基本操作や基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるよう配慮されているとともに、問題解決学習を行う前に基本プログラムを体験できたり、豊富な問題解決例を示したりすることで、社会における問題解決を考えられるよう工夫されている。

次に、教育図書である。各編において、問題解決の手順を4ステップで統一するとともに、ステップごとに事例が多く示されており、写真やイラストも豊富に掲載されているなどの工夫がなされている。さらに、簡単な問題解決実習などの活動を通して、プログラミング言語の理解や理論が習得できるように配慮されており、加えて「スキルアシスト」に基本操作方法をまとめて掲載することで、論理的な思考が身に付くよう工夫されている。

一方、技術の見方・考え方を育成するために、既存の製品に應用されている工夫を紹介するページはあるものの、冒頭のガイダンスを含め、最適化の概念の説明や取扱いについてやや不十分な点が見受けられた。

最後に、開隆堂出版である。各編の見開きには、問題解決に必要な要素と流れがひと目で分かるようまとめられ、生徒にとって問題解決の手順がイメージしやすい構成となるよう工夫されている。また、巻頭で、トレードオフと技術のしくみの最適化について説明し、その後の問題解決学習において、トレードオフという言葉が適所に用いることにより、生徒が最適化を捉えやすく、繰り返し学習できるよう工夫されている。さらに、プログラミングに対する本質的な理解を図るための内容を充実させており、処理の流れとプログラムの内容が分かりやすいようにアクティビティ図とプログラム例を掲載するなどの工夫がなされている。

以上を総合的に勘案した結果、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えます。

続いて、技術家庭科 家庭分野である。別紙1の19ページを御覧いただきたい。

まず、東京書籍である。見開きページの「いつも確かめよう」で実習や生活の実践に関わる技能や科学的根拠をまとめて掲載されており、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を繰り返し確認できる工夫がなされている。また、各編の扉ページで関連する見方・考え方を例示し、生徒自らが多角的な視点から考え、判断、決定して問題解決に取り組む構成となっており、優れている。

次に、教育図書である。各節最後の「ふり返る」で学習内容を3段階で自己評価するとともに、生徒自身の言葉で振り返ることができる欄を設け、見通しと課題意識をもって学習を進められるよう工夫されている。また、巻頭で家庭分野の学習の考え方の視点を具体的に紹介されており、加えて「学習のふり返り」の中で各章の内容に応じた課題についての学習の進め方がまとめられているなどの工夫がなされている。

最後に、開隆堂出版である。各節の始めに「学習の目標」と身近なことから考えられる課題が示され、生徒が見通しと課題意識をもって学習を進められるよう工夫されている。また、巻頭で生活の営みに係る見方・考え方の視点が紹介されており、加えて主体的・対話的で深い学びの理解を促す学習方法が掲載されているなどの工夫がなされている。

以上を総合的に勘案した結果、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えます。

続いて、外国語科についてである。6社について概要を御説明申し上げます。別紙1の20ページ御覧いただきたい。

まず東京書籍である。巻頭には各単元における学習目標、巻末には小学校から中学校、高等学校までの学びを見通したCAN-DOリスト、各単元末には振り返りや自己評価ができる「CHECK」等、学習計画や学習到達目標の明示が工夫されており、優れている。加えて、

各単元冒頭の「Preview」では、新出表現をどのような目的、場面、状況で使うのかを意識したり、気付いたりする活動が設定されており、生徒が言語の使用場面を想定しながら、コミュニケーション活動を行うことができるとともに、各単元の「Read and Think」では、概要を掴む発問、詳細を押さえる発問、表現に繋げる発問が設定されており、生徒が段階的に理解を深めたり、情報を整理しながら表現活動を行うことができるよう工夫されており、優れている。

開隆堂出版である。学習指導要領に示されている3つの資質・能力を育成するための到達目標が各単元の「とびら」で分かりやすく解説されており、また、巻末の5領域別にまとめられたCAN-DOリストには、自分に身に付いたことの過程や流れが、生徒自身に具体的に分かるように示されるなど、よく工夫されている。また、生徒の深い学びや主体的・対話的な学びに繋がるよう、各単元の「Action」における題材に関連した自己表現活動や対話的な課題解決の設定、「Our Project」における読んだり聞いたりした内容をもとに即興でやり取りする課題が用意されているなど工夫されている。

三省堂である。各単元の「とびら」では、新出の言語材料や単元で取り組むべき学習活動が提示されており、巻末のCAN-DOリストでは、1年間で学んだことを、生徒自身で振り返ることができるなど、生徒が学習の見通しを立てやすく、学習した内容を確認しながら知識及び技能を習得できるよう工夫されている。加えて、学期末に取り組む「Project」では、聞くこと、読むことの活動に取り組んだ後、その学習内容について話すこと、書くことの活動や、書いたことを基に発表する活動などの課題が用意されており、生徒が自分の考えを整理しながら、発信する力を身に付けられるよう工夫されており、優れている。

教育出版である。各単元末に設定されている「Lesson を振り返ろう」では、生徒が自分で学習到達度を把握するための到達目標が設定されており、巻末のCAN-DOリストでは、中学校3年間の学びを見通した学習到達目標に対して一定の学習内容のまとめごとにも生徒自身で達成度を確認できる等、生徒がその単元の学習の位置付けを確認し、その都度「できるようになったこと」を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。一方で、各パートの「Think & Try!」では、読んで理解したことについて、自分の意見や考え、感想を述べたりする表現活動が設定されており、場面・状況を意識した表現に取り組めるよう工夫されているが、各パートの「Tool Kit」や「Let's Listen」では、新出表現に触れる活動が用意されているものの、本文の要点を掴む活動が少なく、工夫がやや弱いと考えた。

光村図書出版である。巻頭及び各単元の「扉」には、「読むこと」と「話すこと」もしくは「書くこと」の学習到達目標が示されているとともに、単元末の振り返りや巻末のCAN-DOリスト等、生徒が到達度を確認しながら見通しをもって言語材料や語彙を習得できるように、よく工夫されている。また、各単元末には、題材に関して自分の言葉で発信する活動「Goal」、各学期末には、習得した知識及び技能を活用しながら、グループで協力して課題に取り組む活動や相手に伝わるための改善点を考える視点が示されている「You can do it」、さらに主体的に言語活動に取り組むための手法が紹介されている「Let's Talk」など、生徒の学びが深まるよう工夫されている。

最後に、新興出版社啓林館である。各単元の「とびら」では、単元・パート別に、学習到達目標が示されており、生徒が見通しをもって主体的に学習を進めることができ、また巻末のCAN-DOリストでは、生徒自身で学習事項の振り返りと自己評価が行えるよう

に工夫されている。一方で、各単元の「Let's Talk」、「Think & Speak」「Let's Write」等で、即興的な対話活動が設定されているが、対話を広げるための手立ての明示が不十分であり、また、各単元の「Speak」は、パターン・プラクティスの域を出ておらず、生徒が即興的なやり取りを継続して行うための工夫としてはやや弱いと考えた。

以上を総合的に勘案した結果、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えた。

特別の教科 道徳についてである。7社について概要を御説明申し上げる。別紙1の22ページを御覧いただきたい。

最初に、東京書籍である。巻頭に漫画を用いた実際の授業場面が紹介されているのに加え、1つ目の教材の最後には、その教材の発問を取り入れながら具体的な授業の流れのステップが示されており、生徒が自分の考えを深めるイメージをもつことができる。また、各教材では、生徒に投げかける表現でテーマが示されるとともに、各教材末には、2つの発問に続いて「ぐっと深めよう」が用意されるなど、考えをより深められるようよく工夫されている。さらに、問題解決的な学習や、役割演技等の体験的な学習が複数用意されており、役割を演じて考えを伝え合うだけでなく、それぞれの立場で問題解決的に考えることで深い学びへと向かえるよう、よく工夫されているなど、「考え・議論する道徳」の学習活動が展開しやすいようよく工夫されている。

教育出版である。巻頭では、4つの学習の流れが示されており、生徒が道徳科の授業のイメージをもつことができる。また、各教材の冒頭に、学習のねらいの意識付けを行うための導入文が、疑問文の形で示されるとともに、各教材末には、道徳的価値の理解を深め、自己を見つめる発問が3問用意されており、生徒が考えの変化を実感しやすく、段階的に考えを深められるよう構成されている。さらに、同じ内容項目を異なる視点から扱う読み物資料が用意されているなど、多様な見方や考え方を促し、より深く考えられるよう工夫されている。

光村図書出版である。各学年の1つ目と2つ目の教材では、道徳科での学習方法や考えの深め方が示されており、自分の考えを深める手立てとなるよう工夫されている。また、題材の最初に内容項目が提示され、各教材に関する発問の後には、「見方を変えて」、「つなげよう」が、分かりやすく区別して設定されており、段階的に考えを深められるようよく工夫されている。

さらに、「演じて考えよう」では、吹き出しの空欄に言葉を入れて演技をすることで、生き方を考えられるよう工夫されているほか、現代的な課題については、生命の尊重に関する教材が全学年において1学期ごとに1つずつ、様々なユニットに位置付けられており、多面的・多角的に考えられ、感動を覚えられる工夫がされている。

日本文教出版である。巻頭で漫画を用いて学習の流れが示されているとともに、プレ授業をするミニ教材が用意されており、生徒が道徳科の授業のイメージをもつことができる。また、教材末では発問が2問設定されるなど、生徒が段階的に考えを深められるよう工夫されている。さらに、問題解決的な学習や体験的な学習を設定する教材の後に、特設ページやコラムが用意されるとともに、思考ツール等の話し合いを深める手立てが掲載されるなど、生徒が多面的・多角的に考えを深められるよう工夫されており、優れている。

一方、「よりよく生きる喜び」の内容項目について、人間の弱さや醜さについて考えるには身近ではなく、葛藤場面について考えられる工夫は弱いと考えられる。

Gakken である。巻頭では、「考えを深める4つのステップ」として、イラストを用いて、分かりやすく示すなど、生徒が道徳科の授業のイメージをもちやすく、また、主体的・対話的に学習に取り組めるよう構成されている。また、各教材の冒頭には、生徒自らの気づきや考えを促すキーフレーズが用意されており、各教材末には、発問が2問設定されるなど、生徒が多様な視点から段階的に考えを深め、これからの生き方につながるよう工夫されている。さらに、教材理解を深める関連資料や考えをさらに深める活動が掲載されているページが適宜配置され、生徒の多様な見方・考え方を促すことができるようよく工夫されている。

あかつき教育図書である。巻頭で、道徳科で考えること、話し合うことの意味がメッセージと共に紹介されているとともに、各学年の1つ目の教材が、学年ごとのテーマについて考えられるものとなっており、1年間の学習の見通しをもてる工夫がされている。また、各教材末には、問いが2問設定され、さらに「自分との対話」という生き方を考える発問も設定されているなど、生徒が考えを深められるよう工夫されている。さらに、コラムや多様な学習活動を提示する特設ページが適宜配置され、生徒の多様な見方・考え方を促し、より深く、より視野を広げて考えられるようよく工夫されている。

日本教科書である。多様な見方や考え方を促すため、「ウェルビーイングカード」が用意されており、自分の考えを明確にして、どのような価値を大事にしているのかを意識したり、それについて生徒同士で議論したりすることができるようよく工夫されている。しかし、各教材には主題等が示されていないため、内容が捉えにくく、また、道徳的価値に迫るための発問が1問しか設定されていない教材もあるなど、生徒にとって使いづらく、段階的な学びの手立てとして弱いと考えられる。また、問題解決的な学習や体験的な学習が設定された教材に具体的な学習の手立てが少なく、使いづらい面が見られる。

以上を総合的に勘案した結果、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考える。

各教科の説明は以上である。御質問等があれば、よろしくお問い合わせ。

(委員からの主な意見)

【松山委員】 以前、小学校の採択時に英語について申し上げたが、小学校・中学校・高等学校で学びにつながる教科書を選んでいただければと思う。

また、今回のプレゼン方法について、事前に説明動画を確認してから会議に臨めるような改善を検討されてはいかかがか。議案説明資料を読み上げるのではなく、パワーポイント等で各教科書の評価のポイントを説明いただく形でもよい。そうすれば、前向きな議論もでき、緊張感をもってできるのではないか。恐らく傍聴に来られている方々の中には出版社関係の方もおられると思うが、そういった形の方が今後の参考になるのではないかと思う。

【事務局】 小学校と中学校の校種間の連携については、必ずしも同じ出版社を採択するわけではないが、つながりをしっかりと考えながら検討している。高等学校については、子どもたちが様々な高等学校へ進学するため、使用する教科書についても様々である。

プレゼン方法については、内部からも意見があったところである。今回は従来通りの方法で実施したが、今後改善に向けて検討を進めていく。

【笹岡委員】 膨大な作業量だったかと思う。選定委員の皆様にはしっかり見ていただき、

感謝申し上げます。今後、答申等が公開されることも良いことである。また、別の視点の意見を取り入れる受け口をつくるという意味では、選定委員以外の教員からの意見を収集してはどうか。二次元コードや京都市スタンダードとの関連など、若い教員も気軽に意見が出せるような受け口があっても良いのではないか。見本本の部数が限られているかと思うが、試験的に、現在の展示会場以外に一部の学校で展示してみるのも良いかと思う。教員の負担を増やすのではなく、受け口を広げられる工夫をお願いしたい。

【事務局】 選定委員以外の教員の意見については、指導主事が研究会等で意見の吸い上げを行っているところ。選定委員についても、現場で活躍されている教員に委嘱されており、幅広く教員の声を拾えていると考えている。

展示会については、物理的に難しい面もあるが、より広く意見を求められるよう検討してまいる。

【稲田教育長】 松山委員の御発言にもあったが、プレゼン方法については、次回の小学校採択に向けて、有意義な時間となるよう工夫をお願いしたい。

指導主事におかれては、この間他の業務で忙しい中御尽力いただき感謝申し上げます。また、理科については採択替えになるため、ソフトランディングできるようによろしく申し上げます。

(議決)

教育長が、「議第11号 令和7年度から令和10年度まで京都市立中学校及び義務教育学校（後期課程）において使用する教科書の採択について」について、各委員「異議なし」を確認、議決。

(4) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

8月1日～8月2日 NIE 全国大会京都大会

8月2日～8月3日 堀川高等学校「SSH 探究道場連携校サミット」

8月9日～8月16日 学校閉鎖日

○事務局から、当面の日程について説明

(5) 閉会

11時00分、教育長が閉会を宣告。

署名 教育長